



◇今回は、佐藤知史さん（岐大附属病院高度救命救急センター看護師）の登場です！

私は岐阜大学医学部看護学科を卒業し、同大学医学部附属病院の高度救命救急センターで看護師として働き始めて3年がたとうとしています。看護師を目指している学生の皆さんもいると思うので私が看護師になってから思ったこと、皆さんに伝えたいこととお話したいと思います。

□高度救命救急センターで働く看護師とは

岐阜大学病院は特定機能病院に認定され、災害拠点病院に指定されており、県内のドクターヘリの運行拠点となっています。私が働いている救命センターはドクターヘリを扱う部署であり、救急車やヘリで運ばれてきた患者さんが入院する病棟です。ドラマ「コードブルー」のような世界を思い浮かべていただければわかりやすいかもしれません。

私はそこで、救命救急センターの看護師として、日々、患者さんの体をふいたり、食事の手伝いをしたり、患者さんの身の回りの世話をすると同時に、医師の指示に従い点滴を投与したり様々な処置の手伝いをしたり、患者さんのバイタルサインの測定をしています。また、救急車の対応をおこなう救急外来担当の看護師や、ドクターヘリに医師と同乗し現場へかけつけるフライトナースが救命センターに所属しています。

入院することになる患者さんは心肺停止後の人、交通事故で全身の骨折があり手術が必要な人、脳卒中で治療が必要な人、薬物中毒に陥った人、全身の火傷により皮膚の移植が必要な人など様々な患者さんがおり、治療の結果、状態が良くなっていく患者さんもいれば、亡くなっていく患者さんもいます。入院した後に急変してしまい心肺停止に陥ってしまうこともあり、実際に私も目の当たりにし胸骨圧迫を行った経験もあります。



ドクターヘリとドクターカー

□どうして看護師を目指そうと思ったのか。

私は人助けをしたいという思いが小さいころからありました。医師になることも夢見ましたが勉強がそんなに得意ではなかったので小学生の頃に諦めました（笑）レスキュー隊も考えましたが体力がないので諦めました（笑）じゃあ医療職だったら看護師あるじゃん、看護師になろう、男だし目立つし、女の人と比べて力もあるし、なんてちょっと軽い気持ちで中学生の頃に決めました。

家系で医療者は一人もいませんでしたし、医療に関する感動的なエピソードが私の経験にあったわけではありません。意外と口に出して目標を人に話してみると目標がだんだんと固まっていき、本気で達成しようとするもので、気づいたら12歳のころからなりたと思っていた職業に10年かけてなることができました。高校生のころからフライトナースってかっこいいなと思いドクターヘリのある岐阜大学看護学科を志望し、その後就職先も同大学病院の救命センターを志望し運よく1年目から配属され働くことができました。



学生時代の実習中の様子

□救急の看護師がすごい？

救命センターって壮絶！救急の看護師はすごい！かっこいい！と思う方もいるかと思います。実際に私も救急の看護師ってかっこいい、フライトナースってすごいと思っていましたし、目指していました。でも、少しまってください。もしかしたら皆さんは医療といえば救急、集中治療、小児、出産、手術、がんなどといった偏ったイメージを持っているのかもしれませんが。

医療の現場は様々で、患者さんは日常生活に復帰するためにリハビリを行うために、よりリハビリに特化した病院へ転院することになったり、自宅で在宅の医療を受けたり、死を迎えるにあたってホスピスなどで緩和医療を受けることになったりします。同様に看護師の働き方も様々あり、手術室で手術の介助をおこなう手術室の看護師や、訪問看護ステーションで訪問看護を行う看護師、介護施設で管理者として働く看護師、看護師の資格を有しながら看護師の国家試験の予備校の講師をする人、研究を行う看護師、海外で働く看護師、認定看護師、専門看護師など数え切れないほど看護師としての仕事は多岐にわたります。それぞれに専門性があり、優劣があるわけではありません。

□働き始めてからの迷い

私は前述したようにフライトナースを目指して看護師になり、運よく挑戦できる環境にすることができています。フライトナースになるためには、日々相当な努力をしなければならず、様々な研修や学会に行き自己研鑽を行っていく必要があります。実際に私も研修を自ら東京に受講しに行ったり、いくつかの救急に関する資格を取得しています。もともと、私は要領の良いほうではないですし、頭の回転が速いほうでもなく、緊張してしまうと物事がうまくできなくなってしまう性質なのできっと救急には向いていないだろうなという気持ちがありましたが、初志貫徹の精神で救急、集中治療の分野を選びました。

しかし、実際にフライトナースとして働いている先輩方の仕事ぶりは素晴らしく、自分の知識や技術

のなさと比較して落ち込んでしまうこともあります。自分が数年後先輩方のようになることができているのだろうか不安でいっぱいになることもあります。そんなときにフライトナースである先輩が「なんでフライトナースになりたいの？」と私に声をかけました。その時私は質問に答えることができず、なんでこの分野の看護師になりたかったのかわからなくなりました。

この3年間で病気について、薬について、治療の方法や、家族の対応や、看護理論様々なことを学んできましたが、自分が将来どんな看護師になりたいのか、どのように働きたいのかを深く考えてこなかったことに気が付きました。一緒に大学を卒業した友人が結婚や出産で退職したり、病院を変えたり、病院ではないまったく別のところに転職をしていき、同時に先輩方がさらに知識を深めるために大学院や専門学校へ入学したりしていきます。私は将来どうなっていきたいのかを考えないといけないのかなと思うようになりました。

□周りをみてみると

看護師という仕事についてと私の悩みについて書いてきました。もしかしたら、皆さんも進路に悩んでいるのかもしれませんが。そうです。社会人になっても悩むのです。そんな時に自分の高校の友達は何をしているのだろうと思うことがあります。高校の頃の友達に会ってみて話を聞くといろいろな回り道をして今に至っているのだなと感じます。

あの頃弁護士になりたいといっていたのに、先生になりたいって言ってたのに、通訳者になりたいといっていたのに、今では全然違う職業に就いていたりします。それぞれの話を聞くと、留学をしたり、ボランティア活動をしたり、研究室での活動が認められたりなどと、いろなきっかけがあって、いろんな体験をして、いろんな回り道をして今に至っていることを知ることができます。

今、私はよくも悪くも自分の目標に一番近いところにいるのかもしれませんが、さまざまな世界を見たり聞いてみたりすると、そっちも楽しいのかもしれないな、ちょっと回り道をしようかなとも思えてきます。自分が選んできた道は間違ってしまったと後悔はしていませんが、別の道もあったのかもしれないと思こともあります。だから今は看護について、自分が今興味を持っていることを挑戦してみようと思っています。

□皆さんに伝えたいこと

私は看護学科にいたため、看護以外のことを話すことができなくて局所的だったかもしれませんが。前述したように、看護師としての仕事は多岐にわたります。それぞれに専門性があり、優劣があるわけではありません。ひとつの職種ですら様々な分野があるので世の中にはたくさんの仕事があり、選択肢があるのだと思います。

今、皆さんが抱いている目標や将来の



社会人になってから始めた登山

夢は皆さんそれぞれ違うと思いますし、もしかしたらまだ見つからない人もいると思います。自分が選んだ高校、大学での経験が、もともと自分が抱いていた目標や夢を変えるかもしれませんし、新たに作るかもしれません。勉学に励むことはもちろんのことですが、今所属している部活動を頑張ること、体育祭や文化祭の行事に関わること、学校とは違うところで活動してみること、友達との何気ない会話、先生の話など、きっかけは何かわかりませんが、さまざまなことに興味を持ち行動することが皆さんに自分自身について考えるきっかけを与えてくれます。具体的にどんなことをすればいいのかわからないなら、まず皆さんの身近な人について興味をもち、「ねえ、将来の夢とかある？何になりたい？何かやりたいことある？なんでその仕事に就いたの？」こんな感じで話を聞いてみるのが手っ取り早い方法かもしれません。

私は友人から今回の「活躍する卒業生」の話を聞き、実際に書いてみることで自分の将来について深く考える機会ができたと思っています。ありがとうございました。



岐阜大学医学部軽音楽部に入部した関高生一同（看護学科）